

今年3月にハザードマップを大幅に改訂

ChatGPT:

今年3月に全国各地でハザードマップが大幅に改訂された背景には、以下のような理由があります：

① 水防法・制度改正によるリスク範囲の拡大

2021年(令和3年)7月の水防法改正により、すべての一級・二級河川および下水道を対象に、洪水・内水・高潮を想定した浸水区域図やハザードマップの作成・公表が義務化されました [satisfy+6 国土交通省+6 豊明市公式サイト+6](#)。そのため、これまで対象外だったエリアが新たに含まれるようになり、大規模改定が必要になったのです。

② 浸水想定基準の見直し

たとえば愛知県豊明市では、これまで「100年に一度の大雨」を想定していた浸水域を、「1000年に一度の大雨」に改めることにより、洪水リスクが大幅に拡大し、新たなハザードマップとして再作成されました。これは地球温暖化や気候変動の影響で豪雨頻度・規模が増大している現状を反映しています。

③ 都道府県レベルでの浸水想定図の更新

自治体は国や都道府県が最新化した洪水浸水想定図を受けて、自分たちのハザードマップも一斉に見直しました。たとえば愛知県においても、県の洪水浸水想定が改定されるたび、各市町村マップの注釈や浸水エリア等が更新されています。

結論

要するに、制度改正+豪雨頻度強化+最新の浸水予測図への対応という三重の要因から、今年3月に全国的にハザードマップが見直されたのです。

住民や不動産取引の場面でも、最新のリスクを正しく把握するために、現在公開されている最新版ハザードマップの確認が強く推奨されています。

必要であれば、お住まいの自治体名(例:愛知県○○市)を教えていただければ、具体的な改訂内容や最新MAPの取得先をご案内できます



情報源

愛知県春日井市高蔵寺町

ChatGPT:

春日井市高蔵寺町を含む春日井市東部地区では、今年(令和7年／2025年)3月に洪水ハザードマップが大幅に改訂されました。その主な理由は以下のとおりです：

❶ 想定最大規模の降雨(L2)への対応

- 春日井市は「想定し得る最大規模の降雨(L2)」、つまり1000年に一度起こりうる大雨を基準にしてマップを刷新しました。庄内川・大山川などでは、24時間降水量が最大836mmと想定されており、これに対応するため、高蔵寺町を含む東部地区の浸水深・範囲が全面的に見直されました。[名古屋市公式サイト+12 春日井市公式サイト+12city.motosu.lg.jp+12](#)

❷ 水防法改正への対応

- 2021年の水防法改正で、対象となる河川が拡大され、水害ハザードマップの整備基準も強化されました。これにより、河川・下水道における洪水、内水、高潮を想定したゾーニングが義務化され、春日井市も対象河川を含めた浸水想定を再点検・拡大した形です。[豊田市公式ウェブサイト](#)

❸ 愛知県の浸水想定区域図の更新反映

- 愛知県が2025年3月21日付で庄内川水系(矢田川・香流川など)および天白川流域の洪水浸水想定区域を更新。春日井市はこれを受け、地元版ハザードマップも同時期に再改訂し、東部・中部・西部それぞれの地区に最新データを反映しました。[愛知県公式ウェブサイト](#)

❹ 高蔵寺町への影響

高蔵寺町を含む東部地区版マップでは、浸水の深さ・範囲が従来より広がっている可能性が高く、避難ルートや地域の脆弱性が可視化されています。東部地区版ハザードマップ(PDF:約8.1MB)を市公式サイトから確認し、家族で浸水深や避難場所までの所要時間を共有しておくと安心です。[多治見市公式サイト+3 春日井市公式サイト+3city.motosu.lg.jp+3](#)

❺ おすすめアクション

1. 春日井市公式サイトの「洪水ハザードマップ(東部地区版)」PDFをダウンロード。
2. 自宅周辺の浸水深を確認し、避難場所・安全経路を家族で話し合う。
3. 避難時に便利なルートを地図に書き込むなど、視覚的に整理しておく。
4. 市が公表している情報(防災アプリ「春ポケ」など)を活用して、最新の気象情報・避難情報を受け取る準備を。